

東京支部長就任のご挨拶



2020年10月10日 栗木 康幸

東京支部総会において支部長を拝命することになりました21回生の栗木康幸です。これまで副会長として同窓会活動に参加しておりましても、海外暮らしが長く時間・量とも然したる関与が出来ておりませんでしたので、身に余る大役と緊張しております。

しかしながら母校への思いは皆様と同様に強く持っておりますので吉田新会長、小田顧問（前支部長）はじめ皆様のご指導を賜りながら責務を果たしてまいる所存です。

思い返せば附設卒業以来さほど同窓会とは縁のない時間を過ごしていましたが、亡くなられた渡辺さん、長縄さんに20年近く前のある日突然呼び出しを受けて、もうすぐ支部総会の幹事学年になるから回生の仲間を集めて準備を始めるよう言われた記憶があります。現副会長の砂場さんはじめ多くの同級生が協力して何とか支部総会にこぎつけることが出来ましたが、ほぼ時を同じくして韓国赴任となってしまう、また同窓会とは疎遠な日々になってしまいました。

そのような中、高橋前会長をはじめとする同窓会役員の皆様のメールなどを通じてその仕事ぶりを拝見しながら勉強させてもらっていました。昨近コロナによるテレワークが盛んになっていますが、それよりよほど以前から、たとえばメンバーからある案件が持ち上げられるとその日のうちにもものすごい量のメールが飛び交い少なくとも2・3日の内に結論が出るということは何回も見てきました。そのスピード感と内容も大きな方針から文書の一語一句まで、ついうっかりメールを見過ごすとは追いつくのに苦勞するほどです。

これも歴代受け継がれてきた母校と同窓会への強い思いの表れであろうと思っています。

一般のビジネスにおいてはテレワークでもなんとか代替可能か反って効率的であるケースもありますが、同窓会はやはり一堂に会することに勝る方法はないと思っています。ご承知のようにコロナ渦により多くの同窓会活動が中止、延期あるいはWeb会議など大きく影響を受けおり、また終息の目途も見えていません。

このような環境のもと支部長の重責を担うにあたり私としましては先に述べました同窓会会員皆さまの熱い思いを冷ますことのないように様々な工夫をしながら、いつか普通にお会いし酒を酌み交わすことが出来る日が来ることを願いながら任にあたってまいる所存です。この場をお借りして同窓会会員皆様のご理解とご助力をお願い申し上げます。